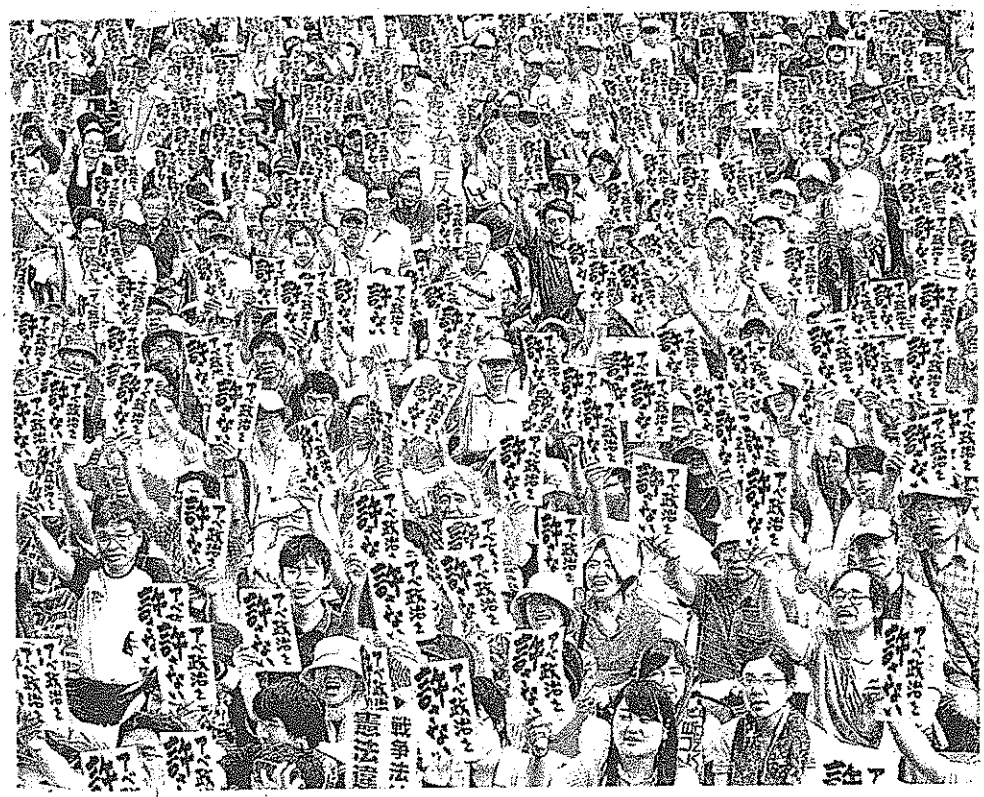
7/19
朝日



「アベ政治を許さない」と印刷された紙を一斉に掲げる参加者ら＝18日午後、京都市東山区、戸村登撮影

安保法案「許さない」

全国 同じメッセージ掲げる

「アベ政治を許さない」――。安全保障関連法案が衆院を通過してから初めての週末となった18日、各地で同じメッセージが書かれた紙が掲げられた。ノンフィクション作家の澤地久枝さん(84)やジャーナリストの鳥越俊太郎さん(75)らが呼びかけ、午後の一斉行動につながった。

▼3面＝長谷部・杉田考論、4面＝審議検証、33面＝言葉の力 戦争はNO

国会前には約6千人（主催者発表）が集まり、澤地さん、鳥越さんと一緒に紙を掲げた。京都市円山公園音楽堂では約4千人（同）が参加。小学校教諭の八田由美子さん(32)は「立場上ここに来るのは勇気のいること。でも、子どもたちを二度と戦争に送らないために声を上げようと思いました」と話した。

参加者が持つ「アベ政治を許さない」の紙はコンビニで印刷したものも。発信側が専用ホームページに画像登録し、発行された予約番号を公開。画像を見た人が店の複合機に番号を入れると印刷できる。1枚20円（白黒A3サイズ）という手軽さが受けている形だ。

反戦 筆に込めた

金子兜太さん

「アベ政治を許さない」の文字を書いたのは、俳人の金子兜太さん(95)だ。

「どれだけ頼まれても、戦争は二度と行きたくない」

終戦の前年、海軍の主計中尉として南太平洋・トラック島に赴任した。手製手投げ弾の実験が失敗し、目の前で工員の腕が吹き飛び、背中がえぐれた。即死だった。「これからの人たちに同じ経験をさせてはいけない」。その思いを筆に込め、一気に書き上げた。

「許さない」と書きつつも、米国に「夏までに成立する」と約束し、法案成立へとひた走る日本の首相の言動をみると、「気の毒にも思える」という。「でっち小僧が旦那になだめられたり引っぱたかれたり、時々菓子をもらったりして、いいようにされている姿を想像してしまう」

揮毫は旧知の作家、澤地久枝さんから6月上旬に依頼された。色紙を受け取った澤地さんは「素晴らしい迫力だった」と感激してくれた。金子さんは自分の文字が掲れるデモの光景をテレビで目にし、「『反対』の声はじわじわ効いてくるはず」と感じている。（伊木緑）